

4歳児 E 児 事例⑤

個別

4歳児E児 事例⑤ポイント挿入

令和6年度～年度)

(

保育園)

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
保 育 太	男		3歳児：〇〇 △△	令和6年度 ・食べ物にこだわりが見られる。 ・戸外で虫を探すのが好き。 自閉スペクトラム症 令和7年度 ・食べ物の好き嫌いが強い。 ・虫が好きで、虫の名前を良く知っている。	身体障害者手帳（ 療育手帳 A・B1・B2 精神障害者保健福祉手帳 1級・2級・3級 特別児童扶養手当 1級・2級
		入所年月日	4歳児 △△ □□		
		R6.4.1			
医療・相談機関		関係機関からの支援や情報			
令和5年度 ・〇区保健福祉センター（〇医師）（◇保健師） 06-6××-×××× 令和6年度 ・△△医療センター 児童精神科（□医師） 06-×××-××××		令和5年度 ・令和6年3月〇日 3歳児健康診査：問診票の記載及び診察時の様子により「自閉傾向」を指摘されるが、保育園入園が決まっていることから、「少し様子を見ましょう」となり、保健師フォローとなる。 令和6年度 ・令和6年10月〇日 自閉スペクトラム症と診断。療育を勧められる。 ・令和7年2月〇日 個人懇談：「4歳児クラスになったら、療育通所を検討したい」と母より聞く。			
保護者の願い		支援の目標・内容			
令和6年度 ・友達と仲良くしてほしい。 ・他の子どもと同じように、成長してほしい。 令和7年度 ・他の子どもに追いついてほしい。 ・友達の思いや気持ちに気付くようになってほしい。		令和6年度 ・保育園で安心して過ごし、友達との関わりが増えていくように、保育者とのふれあいを大切にし、信頼関係を基盤としながら友達との関わりの中立ちを図っていく。 令和7年度 ・身の回りのことを自分でできるようになることで、自信をもって意欲的に生活できるように、視覚支援等を大いに活用し分かりやすい環境を整える。 ・友達存在や思いに気付き、友達と関わる喜びを感じることができるよう、保育者が中立ちとなりながら、活動の興味・関心を広げ共感する。			
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日	保護者名		
(就学前確認欄) この支援計画書を就学先小学校に引継ぎすることに同意します。		令和 年 月 日	保護者名		

4歳児E児 事例⑤

児童名 保 育太		家庭の様子：5つ上の兄のことが大好きで、家にいるときは、いつもくっついている。兄がおんぶしてくれるのが嬉しくてたまらない様子。兄のおかげで、母は家事等ができて助かっているとのこと。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 4 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要はない 幼児クラスの集まりのときは事務室に行き、タイマーで時間を約束するが、みんなのところに帰ることを嫌がることもある。 朝の会の始まりにかかる曲は、好きな音楽なので喜んでいる。 椅子の脚元の人工芝の感覚を好み、フィギュアを机上に持つことで機嫌よく自席に座る。 そばにいる保育者と目が合うと、笑顔で持っているフィギュアを見せる。 					
言語	<ul style="list-style-type: none"> 室内や園庭で、みんなが各々遊んでいるときに、何も言わず、突然、保育者や友達の背中に乗りかかることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びたい相手には「あそぼう」「いれて」と言おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者と1対1で関わる時間を、毎日10分もち、一緒に遊ぶ楽しさを知らせる。時間を取ることが難しいときには、ハグやハイタッチなど、意識して触れ合う時間をもつ。 関心をもっている相手に適切な関わりができるように、遊びたいと思っている相手の状況に応じて、保育者がモデルとなって「あそぼう」「いれて」等、関わりに必要な言葉を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者との関わりや触れ合いを喜び、笑顔で過ごすことが増える。 保育者が「◇せんせい、あそぼう」「△くん、いれて」と言うのを聞いている。 保育者や友達の背中に乗りかかることはなくなり、友達のことを笑顔でたたくようになる。 5歳児室に行くようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 不安感が、かまってほしいという気持ちになり、急に背中に乗りかかっていたこともあるが、人との距離感が分かりにくい社会性の弱さでもあることから、言語面での支援をすることで、関わり方のスキルを知らせていくことができた。 「具体的な状況」に見られる変化について、担任間で共有し、次の手立てを考える。 	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

4歳児E児 事例⑤

(7 月 ~ 8 月)

(保育園)

児童名 保 育太		家庭の様子：兄が遊んでくれるのでご機嫌で過ごすことが多い。兄が宿題をしているときに、「あそぼう」と言うようになったと母から聞く。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 4 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
言語	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との関わりや触れ合いを喜び、笑顔で過ごすことが増える。 ・保育者が「◇せんせい、あそぼう」「△くん、いれて」と言うのを聞いている。 ・保育者や友達の背中に乗りかかることはなくなり、友達のことを笑顔でたたくようになる。 ・虫の図鑑がたくさんあるので、5歳児室によく行くようになる。5歳児と虫の名前を言い合って、満足すると機嫌よく4歳児室に戻ってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あそぼう」「いれて」と、保育者や友達に言おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で必要な言葉を使えるように、保育者がモデルとなって「あそぼう」「いれて」等、関わりに必要な言葉を繰り返して伝える。 ・自分の気持ちを出したり、相手の気持ちに気付いたりできるように、「たたくと△くんが痛いよ」「△くんと一緒に遊びたいね」と、双方の気持ちを言葉で代弁し、丁寧な仲立ちを繰り返す。 ・身振りや言葉で伝えようとしたり言おうとしたりしたときを見逃さず、「Oくん言えたね」「△くんも、Oくんの気持ちが分かったよ」と、認める言葉をかける。 ・仲立ちをする際、好きなことや得意なこと（虫が好き、虫の名前をよく知っている）を友達にも知らせていき、共通の興味がある友達との接点をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の言葉を、よく聞いている。 ・とっさにたたこうとすることもあるが、保育者の話をよく聞いている。 ・たいたときに、「ごめんね」と言うようになり、「いれて」も言うようになる。 ・虫の話題になると、瞳を輝かせて虫の名前を保育者や友達に教える。保育者の手を引っ張って、5歳児室に行き、図鑑を広げて、保育者に教えることもある。 ・特に、△児と一緒に図鑑を見ているが、トラブルになることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会性の弱さに対して、前月に続き言語面での支援を行ったが、保育者の言葉はよく聞いている。たいていしまうことはあるが、自分から「ごめんね」「いれて」と言う姿が出てきたので、ねらいは達成した。 ・虫の話題になると生き生きとした姿を見せることを保育者間でも共有する。 ・友達との関わりが増えることで、新たな困りが見えているので、自分の気持ちの伝え方を知らせながら、人と関わる力を育ていけるように手立てを考えていく。 	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

4歳児E児 事例⑤

(9 月 ~ 10 月)

(保育園)

児童名 保 育太		家庭の様子：虫好きは兄の影響とのことで、休日には家族で河川敷に行き、虫探しを楽しんでいる。家でも図鑑を見ていることが多く、知らない虫の名前を兄に教えてもらっている。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 4 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
言語	<ul style="list-style-type: none"> ・「あそぼう」「いれて」と保育者が発する言葉を、よく聞いている。 ・友達を、とっさにたたこうとすることもあるが、保育者が「たたくと△くんが痛いよ」「△くんと一緒に遊びたいね」という言葉は、よく聞いている。 ・たたいたときに、友達の様子を見て、自分から「ごめんね」「いれて」と言うようになる。 ・虫の話題になると、瞳を輝かせて虫の名前を保育者や友達に教える。保育者の手を引っ張って、5歳児室に行き、図鑑を広げて、保育者に教えることもある。 ・特に、△児と一緒に図鑑を見ていることが多く、虫の名前を言い合っている。時々、トラブルになることもあり、「(図鑑を) とられた！」と保育者に言いにくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・△児に「(図鑑を) かえて」「(図鑑を) いっしょに、みよう」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときにも、自分の気持ちを十分に出すことができるように、2人の様子をよく観察し、トラブルになるきっかけを把握する。 ・必要な言葉を場面に応じて使えるように、「取られたら嫌だったよね」「○君は、どうしてほしいのかな」「△君に●●って言ってみようか」など、コミック会話を使って思いを整理する。 ・自分の思いを伝えることができたときには「自分で言えたね」「○○だったんだよね」と、相互の思いをつなげる。 			
この計画内容を確認しました。		令和	年	月	日	保護者名

4歳児 E 児 事例⑤ ポイント挿入

個別支援計画

4歳児E児 事例⑤ポイント挿入

(令和6年度 ~ 年度)

在園期間中、この1枚に年度ごとに追記するため、個別支援計画を作成し始めた年度から、就学前（5歳児）の年度まで、継続して追記していく。

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況
	男		3歳児：〇〇 △△	令和6年度 ・食べ物にこだわりが見られる。 ・戸外で虫を探すのが好き。 自閉スペクトラム症 令和7年度 ・食べ物の好き嫌いが強い。 ・虫が好きで、虫の名前を良く知っている。
		入所年月日	4歳児 △△ □□	
関係諸機関及び担当者名を記入する。病院であれば主治医名、福祉機関であれば担当者名を記載し、連携がとりやすいように、連絡先も記載しておくを望ましい。		「医療・相談機関」と「関係機関からの支援や情報」欄は、横を揃えて年度ごとに書く。		

診断名だけでなく、年度ごとの特徴的な姿を記載する。子ども理解が進んでいく中で見えてくる、得意なことも記載することで、子どもの得意なことからもアプローチしていける。

医療・相談機関 関係機関からの支援や情報

<p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇区保健福祉センター（〇医師）（◇保健師） 06-6××-×××× <p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> △△医療センター 児童精神科（□医師） 06-×××-×××× 	<p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年3月0日 3歳児健康診査：問診票の記載及び診察時の様子により「自閉傾向」を指摘されるが、保育園入園が決まっていることから、「少し様子を見ましょう」となり、保健師フォローとなる。 <p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年10月0日 自閉スペクトラム症と診断。療育を勧められる。 令和7年2月0日 個人懇談：「4歳児クラスになったら、療育通所を検討したい」と母より聞く。
---	--

令和7年度に、新たな関係諸機関や情報を得たら追記する。

この欄には、主観が入らないように気を付け、客観的事実を記載する。

保護者の願い 支援の目標・内容

<p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と仲良くしてほしい。 他の子どもと同じように、成長してほしい。 <p>令和7年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の子どもに追いついてほしい。 友達の思いや気持ちに気付くようになってほしい。 	<p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育園で安心して過ごし、友達との関わりが増えていくように、保育者とのふれあいを大切にし、信頼関係を基盤としながら友達との関わりの仲立ちを図っていく。 <p>令和7年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことを自分でできるようになることで、自信をもって意欲的に生活できるように、視覚支援等を大いに活用し分かりやすい環境を整える。 友達の存在や思いに気付き、友達と関わる喜びを感じることができるよう、保育者が仲立ちとなりながら、活動の興味・関心を高める。
---	---

支援の内容は教育的意図をもった働きかけを具体的に記載する。

「保護者の願い」「支援の目標・内容」も、年度ごとに記載していく。

就学前教育カリキュラム P55.56 「3歳児カリキュラム」、P67.68.69 「4歳児ラーニングデザイン」参照

児童名	保 育太	家庭の様子：2月の個人懇談で療育の話が出たが、具体的には動けていないとのこと。家庭では、食事面の変化は特になく、変わらない様子に思えるとのこと		園長	担任(作成者)
クラス年齢	3歳児・4歳児	今後、療育に関する具体的な情報を得た段階で、個別支援計画に時系列で記載する。			
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	進級しても支援が継続しつなげていくことを目指すために、可能であれば「3月～4月」として、旧担任が作成できると望ましい。もち上がりであれば引き続き作成でき、担任が交代するのであれば、引継ぎの為のツールとしても活用したうえで、新担任が続けて作成していくことができる。	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 登園時の朝の準備はスムーズになり、保育者に見守られながら機嫌よくしている。 好んで食べていた白ごはん、食パンを嫌がり、椅子から立ち上がることが増える。 	<p>「生活」面での姿は、支援をするうえで大切な情報である。姿に変化が見られていることから、家庭の様子とともに、把握しておくことで、子ども理解につながる。</p>	<p>観察と子ども理解により、集団活動ではなく「個」を大切に支援を心がける視点は、子どもの困りをできるだけ早く解消することにつながる。</p>	<p>「ねらい」を置かない項目であったが、子ども理解のためには観察を続け、職員間の共通理解のために、「評価・今後の課題」欄に記載しておくが良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 給食時の変化は落ち着き、以前のように白ごはんを食パンを食べるようになる。年度末から年度始めへの不安定感を敏感に感じていたようである。
社会性	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会やクラス全員で活動しているとき、幼児クラスの集会時などに、トイレに行きたがるが増える。 保育室にいても、遊びが転々とし集中できない様子がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びができる場所で過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着かない原因を探りつつも、無理に活動に入るように促すのではなく、保育室だけでなく、心地よく過ごせる場所(空間)を用意する。 少しは興味を向けることができるように、朝の会の始まりに好きな音楽をかけてみる。 椅子の脚元に人工芝のような感触が感じられるものを付けたり、席のそばに好きなフィギュアを置き、フィギュアが着たりして着席できるようにする。 着席して朝の会に参加している保育者が見守り、アイコンタクトを送りながら共感しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児クラスの集まりのときは事務室に行き、タイマーで時間を約束するが、みんなのところに戻ることを嫌がることもある。 好きな音楽なので、喜んでいる。 人工芝の感覚を好み、フィギュアを踏まえて、「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」がどうか、ということの評価して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務室での遊びが楽しくて、切り替えられないことはあるものの、園内でも連携し、心地よく過ごせる手立てを行ったことで、ねらいは達成できた。 年度末になり、園全体が落ち着かない状況になっていることも関係していると思われるので、落ち着ける環境をつくるために準備した、音楽や人工芝は効果的だった。 保育者との共感が、情緒を安定させている。 新たに見えてきている姿をよく観察し、どこに課題があるのかを見極める。
<p>集中力がない</p> <p>部屋に居るのが嫌</p> <p>好きな遊びが見つからない</p> <p>他に気をとられやすい</p> <p>「なぜ？」を考える。</p>		<p>年度をまたぐ計画であることを踏まえ、担任の交代という大きな環境の変化を想定し、「ねらい」は1つでもかまわない。</p>		<p>保育者との信頼関係は、支援をすすめるうえで、何よりも有効である。</p>	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月	次に見えてきた姿を記載しておくことで、次月につなげていける。		「社会性」から「言語」面の支援へ。

前月からの
つながり

保育太 家庭の様子：5つ上の兄のことが大好きで、家にいるときは、いつもくっついている。兄がおんぶしてくれるのが嬉しくてたまらない様子。兄のおかげで、母は家事等ができて助かっているとのこと

園長 担任(作成者)

基本的な生活習慣が身に付いているかどうかは、対象児の姿を知るうえで重要な内容となる。生活習慣が一定身に付き困りがない場合でも、「生活」の項目をあげ「支援の必要はない」と記載しておくことで、保護者を含む、対象児と関わる全ての大人が共通認識できる。

家庭での子どもの様子は、支援につながる大切な情報なので、必ず記載する。保護者との会話で聞いたことであっても、大切な情報の1つである。

項目 生活 言語 具体的な状況 評価・今後の課題

生活

- ・支援の必要はない
- ・幼児クラスの集まりのときは事務室に行き、タイマーで時間を約束するが、みんなのところに戻ることを嫌がることもある。
- ・朝の会の始まりにかかる曲は、好きな音楽なので喜んでいる。
- ・椅子の脚元の人工芝の感覚を好み、フィギュアを机の上に持つことで機嫌よく自席に座る。
- ・そばにいる保育者と目が合うと、笑顔で持っているフィギュアを見せる。
- ・室内や園庭で、みんなが各々遊んでいるときに、何も言わず、突然、保育者や友達の背中に乗りかかることがある。

言語

- ・遊びたい相手には「あそぼう」「いれて」と言おうとする。

具体的な状況

新たに増えてきた姿を良く観察し、課題を見極めたうえで、保育者との関わりをさらに充実させることで、クラス内が心地よく過ごせる場所になっていく。そうして、保育者との信頼関係を土台にし、関心をもっている相手への関わり方を知らせる支援を行っていく。

- ・保育者と1対1で関わる時間を、毎日10分もち、一緒に遊ぶ楽しさを知らせる。時間を取ることが難しいときには、ハグやハイタッチなど、意識して触れ合う時間をもつ。
- ・関心をもっている相手に適切な関わりができるように、遊びたいと思っている相手の状況に応じて、保育者がモデルとなって「あそぼう」「いれて」等、関わりに必要な言葉を知らせる。

評価・今後の課題

- ・保育者との関わりや触れ合いを喜び、笑顔で過ごすことが増える。
- ・保育者が「◇せんせい、あそぼう」「△くん、いれて」と言うのを聞いている。
- ・保育者や友達の背中に乗りかかることはなくなり、友達のことを笑顔でたたくようになる。
- ・5歳児室に行くようになる。

評価・今後の課題

- ・不安感が、かまってほしいという気持ちになり、急に背中に乗りかかってきていたこともあるが、人との距離感が分かりにくい社会性の弱さでもあることから、言語面での支援をすることで、関わり方のスキルを知らせていくことができた。
- ・「具体的な状況」に見られる変化について、担任間で共有し、次の手立てを考える。

子どもの姿はプラスの姿も含めて具体的に書く。

「社会性」から「言語」面への支援へ。

「ねらい」を1, 2つに絞り、スモールステップで置くことで、次のサイクルまでに達成しやすくなり、保育者は支援の効果を実感し、対象児は困りが1つずつ軽減され自信をつけていく。

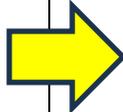
次に見えてきた姿を記載しておくことで、次月につなげていける。

保護者名

この計画内容を確認しました。

前月の【具体的な状況】に記載したことを、翌月の【児童の姿】に記入する。

ASDの診断が出ていることを踏まえ、社会性の弱さが見られることをきちんと認識したうえで、別の視点からのアプローチを考えることは非常に重要である。



前月からの つながり	保育太	家庭の様子：兄が遊んでくれるのでご機嫌で過ごすことが多い。兄が宿題をしている時に、「あそぼう」と言うようになったと母から聞く	園長	担任(作成者)
クラス	4歳児			

項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
----	------	-----	------------	--------	----------

言語	<ul style="list-style-type: none"> 保育者との関わりや触れ合いを喜び、笑顔で過ごすことが増える。 保育者が「◇せんせい、あそぼう」「△くん、いれて」と言うのを聞いている。 保育者や友達の背中に乗りかかるとはなくなり、友達のことを笑顔でたたくようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「あそぼう」「いれて」と、保育者や友達に言おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で必要な言葉を使えるように、保育者がモデルとなって「あそぼう」「いれて」等、関わりに必要な言葉を繰り返して伝える。 自分の気持ちを出したり、相手の気持ちに気付いたりできるように、「たたくと△くんが痛いよ」「△くんと一緒に遊びたいね」と、双方の気持ちを言葉で代弁し、丁寧な仲立ちを繰り返す。 身振りや言葉で伝えようとしたり言おうとしたりした時を見逃さず、「Oくん言えたね」「△くんも、Oくんの気持ちが分かったよ」と、認める言葉をかける。 仲立ちをする際、好きなことや得意なこと(虫が好き、虫の名前をよく知っている)を友達にも知らせていき、共通の興味がある友達との接点をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の言葉を、よく聞いている。 とっさにたたこうとすることもあるが、保育者の話をよく聞いている。 たいたときに、「ごめんね」と言うようになり、「いれて」も言うようになる。 虫の話題になると、瞳を輝かせて虫の名前を保育者や友達に教える。保育者の手を引っ張って、5歳児室に行き、図鑑を広げて、保育者に教えることもある。 特に、△児と一緒に図鑑を見ているが、トラブルになること 	<ul style="list-style-type: none"> 「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。 社会性の弱さに対して、前月に続き言語面での支援を行ったが、保育者の言葉はよく聞いている。ただいってしまうことはあるが、自分から「ごめんね」「いれて」と言う姿が出てきたので、ねらいは達成した。 虫の話題になると生き生きとした姿を見せることを保育者間でも共有する。 友達との関わりが増えることで、新たな困りが見えているので、自分の気持ちの伝え方を知らせながら、人と関わる力を育てていけるように手立てを考
	<ul style="list-style-type: none"> 虫の図鑑がたくさんあるので、5歳児室によく行くようになる。5歳児と虫の名前を言い合って、満足すると機嫌よく4歳児室に戻ってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者がモデルを示すことや、双方の気持ちや、相手の気持ちを代弁するなど、対象児に関わる全ての職員が、共通認識のもとで支援・手立てを行うことにより、ねらいを達成できることにつながる。 できたことを認めたり、ともに喜ぶことは、自信をもたせることや、次への意欲につながる大切な援助なので、必ず記載しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設での支援の効果が、まず家庭の中で見られていることを、保護者と共有・共感することで、更なるステップにつながっていくことが期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「具体的な支援・手立て」を行った中で子どもの姿を具体的に記載する。 	

姿に変化が見られていることを担任間で共通認識し、「なぜ？」を考えることが大事。

保育者がモデルを示すことや、双方の気持ちや、相手の気持ちを代弁するなど、対象児に関わる全ての職員が、共通認識のもとで支援・手立てを行うことにより、ねらいを達成できることにつながる。

できたことを認めたり、ともに喜ぶことは、自信をもたせることや、次への意欲につながる大切な援助なので、必ず記載しておく。

社会性やコミュニケーションの弱さを理解し、好きなことや得意なことを通して、自己肯定感を育てていく。

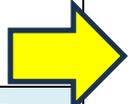
この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。

「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。

前月の「具体的な状況」に記載した姿と同じ内容を、より具体的に書くことで、つながりのある計画になる。

新たに見えてきた子どもの姿があれば記載しておくことで、次のねらいにつなげていける。

令和 年 月 日



<p>児童名 保育太</p>	<p>家庭の様子：虫好きは兄の影響とのことで、休日には家族で河川敷に行き、虫探しを楽しんでいる。家でも図鑑を見ていることが多く、知らない虫の名前を兄に教えてもらっている。</p>			<p>園長</p>	<p>担任(作成者)</p>
<p>前月からの つながり</p> <p>4 歳児</p>					
<p>項目</p>	<p>児童の姿</p>	<p>ねらい</p>	<p>具体的な支援・手立て</p>	<p>具体的な状況</p>	<p>評価・今後の課題</p>
<p>言語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あそぼう」「いれて」と保育者が発する言葉を、よく聞いている。 ・友達を、とっさにたたこうとすることもあるが、保育者が「たたくと△くんが痛いよ」「△くんと一緒に遊びたいね」と言う言葉は、よく聞いている。 ・たたいたときに、友達の様子を見て、自分から「ごめんね」「いれて」と言うようになる。 ・虫の話題になると、瞳を輝かせて虫の名前を保育者や友達に教える。保育者の手を引っ張って、5歳児室に行き、図鑑を広げて、保育者に教えることもある。 ・特に、△児と一緒に図鑑を見ていることが多く、虫の名前を言い合っている。時々、トラブルになることもあり、「(図鑑を)とられた!」と保育者に言いにくる。 <div data-bbox="224 1197 548 1428" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>前月の「具体的な状況」に記載した姿と同じ内容を、より具体的に書くことで、つながりのある計画になる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・△児に「(図鑑を)かえて」「(図鑑を)いっしょに、みよう」と言う。 	<div data-bbox="952 454 1377 949" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>好きなことを通して友達との関わりが見えてきている様子を観察し、行動の前段にある「きっかけ」を見逃さないことが大切。時と場合により、見逃すことがあっても、望ましくない行動の前段には、必ず「きっかけ」があることを保育者間で共通認識しておく。そうすることで、場面に応じた共感や寄り添いができ、保育者の仲立ちによって、相互の思いをつなげることができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったときにも、自分の気持ちを十分に出すことができるように、2人の様子をよく観察し、トラブルになるきっかけを把握する。 ・必要な言葉を場面に応じて使えるように、「取られたら嫌だったよね」「〇君は、どうしてほしいのかな」「△君に●●って言ってみようか」など、コミック会話を使って思いを整理する。 ・自分の思いを伝えることができたときには「自分で言えたね」「〇〇だったんだよね」と、相互の思いをつなげる。 	<div data-bbox="1444 502 1736 694" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>「具体的な支援・手立て」を行った中での子どもの姿を具体的に記載する。</p> </div> <div data-bbox="1456 805 1724 965" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。</p> </div> <div data-bbox="1422 1197 1758 1428" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>新たに見えてきた子どもの姿があれば記載しておくことで、次のねらいにつなげていける。</p> </div>	<div data-bbox="1780 422 2116 798" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。上手くいったことも評価としてきちんと記載しておくことが重要。</p> </div> <div data-bbox="1780 829 2116 1204" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>「ねらい」が達成できたのか、できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということを必ず記載する。</p> </div> <div data-bbox="1780 1228 2116 1500" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>ねらいが達成できたときは、次の方向性（ねらいとして置こうと考えること）について記載しておくことで、計画がつながっていく。</p> </div>	
<p>この計画内容を研</p>	<p>前月からのつながりを意識して、記載も横のつながりを意識する。</p>			<p>日</p>	<p>保護者名</p>